

第11章 板橋区における観光振興について

はじめに

観光とは、中国の古典『易経』にある「国の光を観る」ことが、もとの意味だとされています。『易経』によれば、一国の治世者は、領地を旅して人々の暮らしを見ることによって、よい政治が行なわれているかどうかを確認したのです。また、よい政治の下で、人々がいきいきと暮らすことができれば、他国に「光を示す」ことにもつながる、というのです。つまり、観光の原点は、「人々の暮らしを見る」とともに、その地域に住む人々が「自ら光を示す」ことでもあるのです。（首相官邸HPより）

板橋区では、観光を区の施策の重要な柱と位置づけ、産業振興とあわせて取り組んでいる。2005(平成17)年4月には、「板橋区観光振興ビジョン」を策定し、5目標と13主要施策、さらに24重点事業などを定めた。観光振興ビジョンに基づき、観光センターの開設、観光ボランティアガイドの開始、エリア別・テーマ別ガイドマップの作成、観光案内板の設置、ボランティア育成のための講座の実施などに取り組んできた。さらに、全庁的な取り組みについても施策の体系化が図られ、区役所各課のイベント事業については、それぞれの事業目的に加え、観光振興施策としても位置づけることも始められている。特に、板橋区では商店街や区内産業と観光振興とを結び付け、産業観光に取り組むことも、今後の重要課題であるといえる。（板橋区の観光施策 参照）

また、板橋区の文化活動、文化事業の中にも、観光資源として活用できるものが多数存在している。特に、一般区民を対象にした。「イベント」は、多数の来場者が期待できるとともに、「板橋の魅力」を再発見し、「板橋区」を内外にPRする絶好の場面である。さらに、イベント的な事業の実施にあたっては、事業目的が

わかりやすく、期間が限られているなどの理由から、区民の参加、区民との協働が容易であり、この様な視点からの意義も大きいのではないかと考える。加えて、各種イベントの実施を通じて、区役所の各組織や職員が成長し、組織の連携・協力が行なわれてきたことも、板橋区役所の大きな特徴ではないかと考えている。今後の研究ではこれらを研究テーマとしていきたいと考えている。

今回は、研究の中間のまとめとして、板橋区観光振興ビジョンの概要、産業観光について、イベントにおける区民との協働事例について報告するものである。

1 産業観光について

産業観光とは、須田 寛著（全国産業観光推進協議会副会長、（社）日本観光協会中部支部長）『産業観光読本』によれば、以下のように述べられている。今後、板橋区の観光振興にあたっては産業観光の視点からの取組みを検討する必要があると考える。

(1) 産業観光の意義

日本はものづくりの国として世界にその名を知らされるようになった。この特色（国の光）を内外にアピールするために、産業そのものを観光対象とする。

産業は地域や人間の暮らしに密着しており、どこでもできる観光である。

(2) 産業観光の特性

現在の観光は、従来の団体仕様の画一的なものから、人々の価値観の多様化により、個人仕様に変化している。また、自分の好みにあった観光対象を選択できる選択肢の多い観光を期待している。

着地型の観光

従来の観光は、出発地別に企画し、多くの場合大都市を発地と

する画一的なものとなり、収益も出地にもたらされていた。産業の現場である目的地に主な情報源があり、着地の人々の日常のくらしに密着した観光である。双方向のコミュニケーションにより、普段着、作業着の観光となる。

体験型学習型観光

従来の観光は物見遊山的な見物観光や温泉観光中心であった。新たなニーズとして、体験型の何かをする観光や、学習型の何かを学ぶ観光が求められている。

長期滞在型観光

産業観光に含まれる観光資源は、幅広く多岐にわたっているので、コース設定等で長期滞在型にふさわしい展開が可能である。また、陶芸体験など一定の日数を要するものや農業体験など繰り返し訪問することが可能な観光である。

まちづくりにつながる観光

産業観光は産業発展の経緯をたどり、くらしの原点を求めるものなので、まちづくりと一体になって展開する必要がある。また、地域の人々とのふれあいや環境の保全を重視した新しい観光になりうるものである。

(3) 産業観光資源の分類

- ①産業遺産（産業の歴史を物語る産業文化財）
- ②工房（高度な技術を保有する産業現場）
- ③工場（近代設備を有する産業現場）
- ④農場、漁場（農林水産業の現場）
- ⑤美術工芸品（観賞価値のある産業製品）

板橋区における産業観光を考えた場合、観光資源として以下のものが考えられる。

- ①産業遺産：板橋火薬製造所、圧磨機圧輪等
- ②工房、工場：光学・精密・印刷産業を中心とした工場、展示場

等

- ③農業：生産緑地、芋ほり、果物狩り、産直・直売等
- ④美術工芸品：伝統工芸の工房、作品
- ⑤商店街：とれたて村、板橋縁宿、いたばしのいっぴん、商店街イベント等
- ⑥その他：環境関連施設 エコポリスセンター、リサイクルプラザ等

3 区民との協働の状況 (中山道宿場会議板橋宿大会における事例研究)

(1) イベント実施における区民参加

区実施イベントにおける協働では、①事業予算がすでに確保されているので、区の考えや方針により事業実施できること、②短期間で事業を実施する場合、気心の知れた人で担った方が円滑に実施できること、③単発事業の場合、あまり間口を広げずシンプルな内容の方が計画・実施しやすいこと、などから、ともすれば区役所主導になりがちである。区役所主導での事業実施では、区民は「お客様」となってしまう、事業実施の主体にはなにくく、区民の自主的創造的関わりは得られにくい現状がある。

しかしながら、上記の状況を踏まえると、イベント実施に当たっては、①事業実施のための予算が既に確保されており、新たな金銭的な負担が生じないこと、②短期間で単発の事業の場合、事業目的が単純でわかりやすく、区民参加のための理解が得やすいことなど、逆に区民参加や区民との協働が実現しやすいといえることができる。以下、2006(平成18)年度に板橋区民まつりに合わせて開催された、中山道宿場会議板橋宿大会の事例を紹介するものである。

(2) 中山道宿場会議における協働

実行委員会

板橋宿大会の実施母体としては、中山道宿場会議板橋宿大会実

行委員会を組織し、準備・運営を行った。実行委員会には、板橋区観光協会、板橋区町会連合会、板橋区商店街連合会、板橋産業連合会、板橋区文化団体連合会、東京商工会議所板橋支部、東京青年会議所板橋区委員会、板橋区町会連合会板橋支部、同仲宿支部、同富士見支部、板橋区商店街連合会第一支部、東京国道事務所、東京都交通局巢鴨駅務管理所、板橋区役所が参加した。合計4回の実行委員会が開催され、板橋宿大会の基本的事項について協議し、方針決定が行なわれた。

企画会議

実行委員会の下に、企画会議が設けられ、実行委員会で協議する内容の検討、具体的な事業の企画準備などを担当した。企画会議は、実行委員会のメンバーの事務局長等実務担当者、商連第一支部の各商店街会長・理事長、JR板橋駅長により構成され、延べ8回の会議が開催された。

企画会議では、企画の段階から各委員から積極的な提案があり、中山道ウォーク、足湯、JR「駅からハイキング」については、民間参加団体から提案があった企画を実現したものである。さらに、実施時の運営、区との役割分担等についても検討が行なわれ、企画会議で策定した案を、実行委員会に提案し、全体での合意が形成された。

観光ボランティア

板橋区においては、板橋区の観光情報の提供・発信、中山道板橋宿のPRなどのために、2005(平成17)年4月に旧中山道板橋宿にある板橋地域センター内に「いたばし観光センター」を開設した。いたばし観光センターには区民から公募した、観光ボランティアが常駐し、板橋区内の観光情報の案内、観光センター内の展示の説明、板橋区内の観光ガイドなどを行なっている。現在、31人の観光ガイドが登録し活動している。

今回の中山道宿場会議では、観光ボランティアの活動の一環として、19人が参加し、中山道ウォークでの各説明スポットでの観

光ガイド、中山道パネル展での説明、誘導の役割を担った。

(3) 協働実施の成果と意義

従来の実行委員会方式に加え、イベントを実務的に検討する企画会議を設置し、区民との協働をすすめたのが、中山道宿場会議の協働の特徴であるといえる。その意義は、①企画段階から区民参加が行なわれ、イベントの内容にウォークや足湯など、区民の声が反映されこと、②企画の立案について区民の参加が得られたことに伴い、準備や事業実施に区民が主体的に関わり、創意あふれる様々な提案や行動が得られたこと、③企画会議の参加者以外にも、個々の商店街で地域のつながりを生かして幅広い活動が行なわれたこと、④商店街など区民主体でイベント事業を実施していく機運が高まったこと、が挙げられる。

また、もう一つの成果として、観光ボランティアの活動がある。観光ボランティアは、本年度で2年目を迎えたが、主な担い手は企業などを退職した中高年の区民である。中山道宿場会議に観光ボランティアが関わったことにより、①多くの観光ボランティアが活動に参加できたこと、②従来の活動に加え、新たな活動分野が広がったこと、③観光ボランティアが多くの来訪者を迎えることにより、学習への契機になるとともに、活動への自信を養うことができたこと、が挙げられる。今後の観光ボランティアの活動は、従来の観光センターの運営協力、観光ガイドに加え、イベント事業実施の協力の3事業を軸に、学習・交流活動とともに広がっていくものと考えている。

(4) これからの課題

これまで述べたように、観光関係事業を実施する場合、行政がすべてを取り仕切りその枠組みに区民が参加するケースと、これ以外に区民主体で行政から独立し実施しているケースがある。観光事業における今後の区民参加や協働を軸にした多様で柔軟な事業展開を考えると、行政から独立した主体や組織の形成と、その主体と行政との緩やかな連携が求められる。この場合、行政と

区民との関わりは様々であるが、それぞれが役割を果たしつつ、より区民本位で効果的な展開ができるよう、行政の支援や関わり方の検討が望まれるところである。

また、板橋区には任意団体である板橋区観光協会がある。観光協会は、1976(昭和51)年に設立し、花火大会や区民まつりを区と共催するとともに、独自の観光PR事業などを行なってきた。会員は約600人の個人・団体から構成され、会員の会費と区との共催事業費で運営され、事務は区職員が事務局職員を兼務し、処理している。今後は観光協会が観光振興における区民主体として、組織の拡大充実と運営の活性化、さらには時代の変化に対応した協働の姿が求められるところである。

板橋区の観光振興 ―板橋区観光振興ビジョン (2005年策定)

1 観光振興ビジョンの概要

(1) 第一章 観光を取り巻く潮流

観光交流時代の到来、価値観の変化など観光をめぐる状況の変化、観光の潜在的成長力などの観光のもつ可能性を通して観光の実情を把握するとともに、国・都の観光施策の取り組みを紹介し、観光振興の必要性を考察する。

(2) 第二章 板橋区の観光

区の地域特性や区民生活意識など区の観光を取り巻く現況、区の観光資源や観光関連事業等を紹介する。

(3) 第三章 観光振興の課題

自然環境の保全や住民の参画などの観光振興を進める上で的一般課題を把握するとともに、まちの魅力の創出、板橋区観光協会等の観光推進体制の機能強化、区民の観光意識の向上など、板橋区における観光振興の課題に対する取り組みの必要性を説明する。

(4) 第四章 板橋区の観光振興

① 基本的な方向性

板橋区の観光振興は次の3つの観点で推進する。

ア 観光まちづくりの視点

有力な観光資源を持たず、現状では観光意識が十分に浸透していない板橋区にあっては、早期に観光化し、継続的に観光者を迎え入れることは困難である。板橋区における観光振興は、地域の資源や環境など本来板橋区が持っている個性を輝かせ、区民一人ひとりが住みやすい生きがいのあるまちをつくることを重点にした、観光をまちづくりのための一手段ととらえる観点で進めることが効率的である。そのこ

とが間接的に外部へのアピールとなり、観光者を呼び寄せ、まちの活性化につなげていくことができる。

イ 観光振興の総合的な視点

板橋区における観光振興は、点在する観光資源を有機的に結びつけ、地域特性を活かした観光の視点にたったまちづくりを行うことから出発する。そこでは、区や観光関連事業者だけでなく、区民、NPO、観光関連団体等の多様な主体の参画のもとで、板橋区がもつ自然、歴史、文化など地域のあらゆる資源を活用し、それらを取り巻く環境、施設、産業や区民の郷土を誇る心、ホスピタリティ（もてなしの心）を含めたトータルな観点で、区全体として魅力あるまちの創造に向けた施策を推進する。

ウ 区民等を含めた観光者の視点

板橋区の観光振興は、腰をすえた長期的な視点で推進し、まちの魅力を徐々に高めていく必要がある。従って、観光の対象となる人々は、区内外から観光を目的として訪れる旅行者に留まらず、通勤・通学者や研修、学術研究などを目的に訪れる人、ショッピングや広域的な文化・社会活動などのために移動する人などを含めた広い範囲を想定する。とりわけ、観光者として最も身近な対象である区民が区内地域の魅力に触れることは、板橋区の良さを再認識し、誇りや愛郷心の醸成につながると同時に、自らが住む地域の魅力の向上に向けた原動力となり、相乗効果を生むことが期待できる。

② 観光振興の基本理念・施策の体系

板橋区における観光振興は、観光をテーマとしたまちづくりを通じて、そこに住む区民が誇りと生きがいのもてる「住みよいまち」をめざすことによって、「訪れたいまち」を創造する。そして、ふるさと意識の深い、もてなしの気

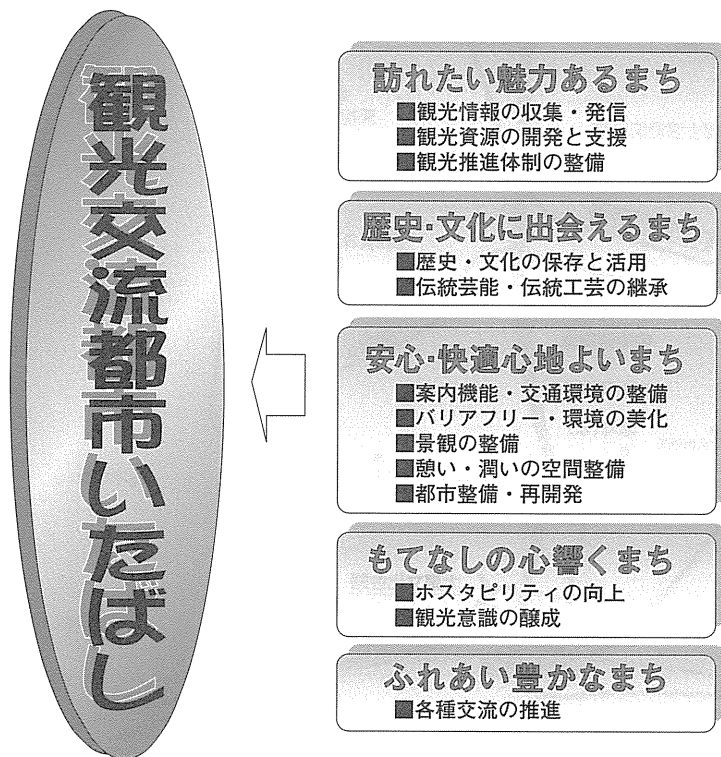
持ち豊かな区民の主体的な参加により、観光者との心の交流を推進し、魅力と活力あふれるまちの実現をめざしていく。

こうした考え方のもとに、観光振興をめぐる様々な課題や基本的な方向性をふまえ、板橋区における観光振興の基本理念を、

魅力あるまち・いたばし再発見

～観光交流都市いたばし創造に向けて～

と題し、目標とするまちの姿を次のとおり5つに分類し、それぞれ具体化するための施策を体系化する。



<資料：不動通り周辺地図>



執筆者一覧

上遠野武司（大東文化大学経済学部現代経済学科助教授）	序 文
上遠野武司（大東文化大学経済学部現代経済学科助教授）	第1章
中村 年春（大東文化大学経済学部社会経済学科教授）	第2章
川野 幸男（大東文化大学経済学部社会経済学科専任講師）	第3章
橋本 一裕（板橋区区民文化部地域振興課長）	第4章
岩田 雅彦（板橋区区民文化部住宅課長）	第5章
山口 謠司（大東文化大学文学部中国学科助教授）	第6章
松尾 敏充（大東文化大学経営学部経営学科教授）	第7章
浅野美代子（大東文化大学法学部法律学科教授）	第8章
首藤 禎史（大東文化大学経営学部経営学科教授）	第9章
有馬 潤（板橋区産業活性化推進室産業活性化推進担当係長）	第10章
寺西 幸雄（板橋区産業経済部くらしと観光課長）	第11章

地域デザインフォーラム・ブックレット No.17

元気な学生まちづくり

編集 大東文化大学・板橋区地域デザインフォーラム第3分科会

発行 大東文化大学地域連携センター

〒175-8571 東京都板橋区高島平1丁目9番1号

TEL 03-5399-7350 FAX 03-5399-7850

発行日 2007年3月31日

印刷・製本／株式会社 アップル・プレス

古紙100%、白色度70%の再生紙を使用しています（表紙を除く）。
